

# 宮農だより

金沢営農協議会  
J A 金沢市  
石川県農業共済組合  
金沢集落農業活動支援チーム

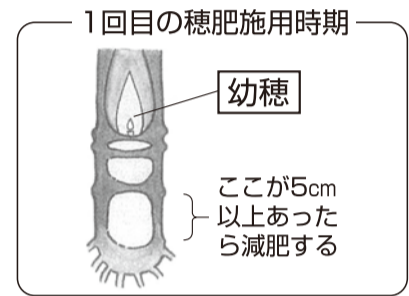
## 7月のポイント ～高品質金沢産米づくり運動10の推進技術～

- 畦畔・農道等、除草は、7月上旬までに追加除草
- 高温登熟、生育に対応した施肥体系
- 中干し後～出穂までの約1か月の飽水管理
- 出穂～刈取直前までの1か月以上の飽水管理(コシヒカリ)

出穂予想日 **コシヒカリ…7月29日頃** (圃場の1/2以上が出穂した時)  
(6月28日現在) 地域や圃場、天候によって出穂日は前後します。

## 乳白粒防止のためのコシヒカリの穂肥施用

- ポイント**
1. 1回目の穂肥は出穂16日前に適量施用する。  
1回目の穂肥施用時期の確認 → 幼穂長：15～20ミリ  
葉色：3.5 (葉色板)
  2. 施用時期は必ず幼穂の伸長と葉色、稲型を確認して施用する。
  3. 2回目の穂肥は遅くとも出穂の7日前までに施用する。



## 稲型診断パターン

**A型**…葉色が薄い(葉色3.5)  
(標準) 葉が立ち、下葉の乱れがない → 基準通り施用  
(茎数が多い場合は1回目の施用量を3kg程度減らす)



写真：A型の例

**B型**…葉色がやや濃い(葉色4.0)  
株が出来過ぎ、らちが見えない  
下葉の乱れがみられる → 1回目の施用時期を3日程度遅らせ、  
施用量を基準量の2～3割程度減らす  
2回目は、基準量を施用する

**C型**…葉色が濃い(葉色4.5)  
葉の乱れが目立つ → 1回目の穂肥を施用しない  
2回目は、草丈・葉色を見て施用量を判断する

(B型、C型の稲型ではすでに下位節間が伸びてきています。倒伏に要注意!!)

## 穂肥施用時期の目安と施用量

(10a当たり)

区分 品種	肥料名	1回目			2回目		
		施用時期	乾湿別	施用量	施用時期	地力別	施用量
コシヒカリ	BB有機入追肥526号 (N:15-P:2.4-K:6)	7月13日頃	乾田	15kg	7月21日頃	乾田	20kg
			湿田	13kg		湿田	17kg
	BB有機入よしみ (東部・医王ライスセンター必須)	7月13日頃	乾田	18kg	7月21日頃	乾田	20kg
	湿田	15kg	湿田	20kg			
	BB有機入850号 (穂肥一発肥料)	7月13日頃	乾田	25kg	—		—
			湿田	20kg			

◎市街地では上記の2～3日前を目安とし、山間地では2～3日後を施用の目安にする。

◎1回目の穂肥を減量した場合でも2回目は必ず基準量を施用する。

## 今後の水管理

中干し後～刈り取り5日前までの間は、**飽水管理**とする。

- 平坦地域の飽水管理の目安  
ゆめみづほ 8月15日頃まで  
コシヒカリ 8月30日頃まで

飽水管理とは…こまめに通水して、常に土壤水分を保つような水管理をすること

※営農テレホンサービス実施中 (電話237-1117)

J A金沢市のホームページにも宮農だよりを掲載しております。「J A金沢市」で検索して下さい。

中干し後から出穂までは、約1か月間(コシヒカリ)の飽水管理!!

# 病害虫防除 県から「斑点米カメムシ類の多発注意報」が発令されました！

斑点米を発生させるカメムシ類が多く、の地点で確認されています。  
 紋枯病の常発地や前年発生した圃場では、予防のため防除を徹底して下さい。

## 基幹防除 (出穂予想：ゆめみづほ7月19日頃、コシヒカリ7月29日頃)

◆粉剤散布の場合 カメムシ類に効果的な防除は、出穂7～10日後頃と、更にその7日後頃の散布です。

	防除時期		薬剤名・適用病害虫	散布量・収穫前使用日数
	ゆめみづほ	コシヒカリ		
1回目	7月12～16日 (出穂前7～3日)	7月22～26日 (出穂前7～3日)	ビームレモンセレン粉剤 DL いもち病、紋枯病、カメムシ類、 ツマグロヨコバイ、ウンカ類、コブノメイガ	4kg/10a 収穫21日前まで
2回目	7月26～29日 (出穂後7～10日)	8月5～8日 (出穂後7～10日)	ラブサイドキラップ粉剤 DL いもち病、カメムシ類、ウンカ類、	4kg/10a 収穫14日前まで
3回目	8月2日～5日 (出穂後14～17日)	8月12～15日 (出穂後14～17日)	スタークル粉剤 DL カメムシ類、ツマグロヨコバイ、 ウンカ類	3kg/10a 収穫7日前まで

※市街地の防除時期は上記の2～3日前、山間地では2～3日後が目安です。

※早生3回、中生2回+随時1回。生育の早い中生は3回防除が必要です。

※粉剤散布後3時間程度降雨がなければ、効果があります。

※防除は稲の株もとにもいきわたるように散布する。

## ◆微粒剤散布の場合 (市街地など粉剤散布ができない圃場)

微粒剤専用ホースまたは、粒剤専用ホースが必要です。

	防除時期		薬剤名・適用病害虫	散布量・収穫前使用日数
	ゆめみづほ	コシヒカリ		
1回目	7月12～16日 (出穂前7～3日)	7月22～26日 (出穂前7～3日)	サジェスト微粒剤F いもち病、紋枯病、カメムシ類、ウンカ類、 ツマグロヨコバイ	3kg/10a 収穫21日前まで
2回目	7月26～29日 (出穂後7～10日)	8月5～8日 (出穂後7～10日)	ビームスタークル微粒剤F いもち病、カメムシ類、ウンカ類、 ツマグロヨコバイ	3kg/10a 収穫7日前まで
3回目	8月2日～5日 (出穂後14～17日)	8月12～15日 (出穂後14～17日)	キラップ微粒剤F カメムシ類、ウンカ類、イネドロオイムシ、 イナゴ類	3kg/10a 収穫14日前まで

## ◆粒剤散布の場合 (市街地など粉剤散布ができない圃場)

	防除時期		薬剤名・適用病害虫	散布量・収穫前使用日数
	ゆめみづほ	コシヒカリ		
1回目	7月5～9日 (出穂前14～10日)	7月15～19日 (出穂前14～10日)	イモチエースキラップ粒剤 いもち病、紋枯病、ウンカ類、カメムシ類 *使用回数は1回です。	3kg/10a 収穫35日前まで (散布後35日以内の収穫不可)
2回目	7月26～29日 (出穂後7～10日)	8月5～8日 (出穂後7～10日)	スタークル粒剤または スタークル豆つぶ カメムシ類、ツマグロヨコバイ、ウンカ類	粒剤：3kg/10a 豆つぶ：250g/10a 収穫7日前まで

※粒剤は、湛水状態で散布し、3～4日間は湛水状態を保つ。

※スタークル粒剤での防除は、「穂が出揃った時～穂が傾き始めた頃」が最適です。

## 随時防除

対象病害虫	薬剤名	散布量	防除時期 (収穫前使用日数)
稲こうじ病	Zボルドー粉剤DL	4kg/10a	出穂前14～10日 (出穂10日前まで)
稲こうじ病・紋枯病	モンガリット1キロ粒剤	1kg/10a	出穂前14～10日 (収穫45日前まで)
いもち病	ブラシン粉剤DL	4kg/10a	発生時 (収穫7日前まで)
紋枯病	リンバー粒剤	3kg/10a	出穂前14～10日 (収穫30日前まで)
コブノメイガ	Mr.ジョーカー粉剤DL	4kg/10a	多発時 (収穫7日前まで)

※農薬は使用時期・量を厳守し、正しく使用しましょう。

※7月上旬まで畦畔や農道の除草を徹底しましょう！刈取った雑草は用排水路に入らないよう注意！